



# 1 いまさら聞けない絶滅危惧種って何？

津田智（軽井沢サクラソウ会議）

今にも絶滅してしまいそうな珍しい生物のことを絶滅危惧種と呼ぶことは、ほとんどの人が知っていると思います。絶滅しそうとは言ってもいろいろなレベルがあり、生息数が非常に少ないイリオモテヤマネコやシマフクロウのように滅多にお目にかかれない種類もあれば、オオムラサキやエビネのように注意深く探せばそこそこ見つけられる種類もあります。絶滅危惧種は絶滅の確率にもとづいてクラス分けされていて、その一覧表のことをレッドデータブック（RDB）と呼び、国（環境省）のほか各都道府県からも発行されています。地域の違いによって絶滅しそうな生物が異なるからです。



## 2 絶滅危惧種と草原管理

増井太樹（（財）阿蘇グリーンストック）

絶滅危惧植物を保全するために多くの場所で「火入れ」という技術が用いられています。火を入れるということは環境破壊のようにも思われることがあるかもしれませんが、この火によって草原性植物が守られる仕組みについて解説します。また、草原の保全活動では生き物の保全に直接結びつかないような多様な活動が展開されています。今回は、それらの活動についても紹介しながら、絶滅危惧植物を保全することと、私たちの暮らしの関係についても考えてみたいと思います。



## 3 軽井沢の絶滅危惧植物と保全活動

今城治子（軽井沢サクラソウ会議）

軽井沢は、夏の冷涼な気候と、草原の景観と山野草の花があるのが当たりまえだった町でした。現在は、草原だけでなく、湿地、雑木林もどんどん減っています。自然調査をして、「貴重な自然」が残っている場所がどこなのか、保全すべき順序を考え、軽井沢の良さを残し伝えるような対策をとっておかないと大変です。軽井沢にはたくさんの絶滅危惧植物があります。サクラソウなどの保全活動について、その中で分かってきたこと、分からないことをお話ししたいと思います。